

2023年11月23日

HPVワクチンのキャッチアップ接種の問題点 —それでもキャッチアップ接種しますか?—

薬害オンブズパーソン会議

代表 鈴木利廣

〒160-0022 新宿区新宿 1-14-4 AMビル4階

TEL.03-3350-0607 FAX.03-5363-7080

yakugai@t3.rim.or.jp

<http://www.yakugai.gr.jp>

HPVワクチンの積極的な接種勧奨が控えられていた期間¹中に、定期接種の対象年齢（小学校6年から高校1年相当）だった未接種の方が、無料でHPVワクチンの接種が受けられる「キャッチアップ接種」が行われていますが、問題点に関する情報提供が不十分です。

そこで、以下に問題点を簡略に整理します。

1 少なくとも21歳以降の初回接種の有効性は示されていない

HPVワクチンは、子宮頸がんそのものを予防する効果は証明されておらず、薬事承認は前がん病変を予防する効果をもとに行われています。

しかし、前がんの病変予防効果は、年齢が上がるにつれて下がり、初回接種が少なくとも21歳以降の場合は、有効性が示されていないことが、厚生労働省の審議会で報告された²次の研究によって明らかになっています。

①米国における大規模データベースを用いたCIN2+, CIN3+の研究³

②デンマークの867,689名を対象とした子宮頸がんの罹患率の研究⁴

③日本のHPVワクチン接種事業開始以降の高度子宮頸部病変におけるHPV16/18型の陽性率の低下をみた長期追跡調査⁵

この結果は、添付文書⁶に記載されているとおり、「接種時に感染が成立しているHPVの排除及び既に生じているHPV関連の病変の進行予防効果は期待できない」とされていることと関連しています。HPVはありふれたウイ

ルスで性交渉で感染するとされていますから、年齢が上がれば、性交渉によって既に感染している可能性が高くなり、効果も下がると考えられます。

2 HPVワクチンに深刻な副反応がある

(1) HPVワクチンには、①知覚に関する症状（頭や腰、関節などの痛み、感覚が鈍い、しびれる、光に対する過敏など）、②運動に関する症状（脱力、歩行困難、不随意運動など）、③自律神経などに関する症状（倦怠感、めまい、嘔気、睡眠障害、月経異常など）、④認知機能に関する症状（記憶障害、学習意欲の低下、計算障害、集中力の低下など）など、多様な症状が一人の人に重なって現れるという深刻な副反応が生じています（多様な症状が生じることについては、厚生労働省のリーフレット詳細版にも、「機能的な身体症状」の説明という形で記載されています⁷⁾）。

(2) 厚生労働省のリーフレットによれば、HPVワクチンの重篤副反応疑い報告は、接種者1万人あたり5から7人（約1500人から2000人に1人）です。これは、他の定期接種ワクチン副反応の平均値に比べ約8倍という高さです。また、副作用被害救済制度において障害認定等を受けた人は、他の定期接種ワクチンの平均の約20倍です。

(3) 副反応に対する治療法は確立していません。厚生労働省は、副反応治療のため、全国に「協力医療機関」を設置していますが、このような医療機関を指定すること自体が異例のことで、HPVワクチンの危険性を示しています。

しかも、副反応被害者が、副反応症状を訴えて協力医療機関を受診しても、担当する医師が、協力医療機関に指定されていることを知らなかったり、副反応治療をした経験がないなどの理由で、治療をしてもらえないことが少なくなく、協力医療機関は十分に機能していません。

(4) 深刻な副反応のために、進路の変更を余儀なくされ、就職もままならない被害者が多数生まれ、東京、名古屋、大阪、福岡の地方裁判所では、被害者による集団訴訟が提起され争われている状況にあります⁸⁾。

HPVワクチンのリスクとベネフィットのバランスは、定期接種の対象年齢でも崩れています。まして、有効性がないか極めて乏しいキャッチアップ接種はやめるべきです。

3 キャッチアップ接種でも新しい被害者が生まれている

キャッチアップ接種でも新たな被害者が出ています。

例えば、天草市に住む女性は、産婦人科医に相談したがリスクについての十分な説明がなく、ガーダシルを接種した後、ハンマーで殴られるような頭痛、関節痛、視覚障害、激しい倦怠感、睡眠障害、高次脳機能障害などの副反応が出現し、現在休学を余儀なくされています。近医に、協力医療機関である大学病院への紹介状の作成を断られたり、ようやく受診ができた協力医療機関では、検査の異常がないから治療はできないと言われてたりして、自力で治療をしてくれる病院を探さなければなりませんでした。

協力医療機関であるから安心できるなどといえる状況になく、ひとたび副反応被害者となった後は、大変過酷な状況におかれるのが現状です。

4 集団接種は予防接種法に照らして問題がある

医学部があるいくつかの大学で、集団接種によるHPVワクチンのキャッチアップ接種が行われていますが、これは予防接種法に照らしても問題のある対応です。

現行の予防接種法は、接種が勧奨されている定期接種であっても個別接種を原則としています。個人の健康状態を十分に把握して接種することや、接種するかどうかの判断（自己決定権）を保障し、接種者のプライバシーを保護するためには、集団接種よりも個別接種が適切であるからです。

宮崎市長は、啓発を込めて大学におけるHPVワクチンの集団接種を行っている」と説明していますが⁹、接種勧奨が行われている定期接種でさえ行っていない集団接種を、HPVワクチン接種の推進と啓発目的で行うことは不適切です。

以上

¹ 厚労省通知

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/pdf/kankoku_h25_6_01.pdf
<https://www.mhlw.go.jp/content/000875155.pdf>

² 第26回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 資料5-2

「HPVワクチンのキャッチアップ接種※に関する 有効性・安全性のエビデンスについて」

<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000854571.pdf>

³ Michael J. Silverberg et al. Lancet Child Adolesc Health. 2018; 2(10): 707-714.
[https://doi.org/10.1016/S2352-4642\(18\)30220-7](https://doi.org/10.1016/S2352-4642(18)30220-7)

⁴ Susanne K. Kjaer, Christian Dehlendorff, et al. Journal of the National Cancer Institute 2021.
<https://doi.org/10.1093/jnci/djab080>

⁵ Koji Matsumoto et al. Cancer Science. 2019;110:3811–3820
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/cas.14212>

⁶ 添付文書 HPVワクチン添付文書（シルガード9）なお、ガーダシル、サーバリックスにも同じ記載がある)
https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuDetail/ResultDataSetPDF/170050_631341CG1023_1_06

⁷HPVワクチンリーフレット 2023年3月改訂版5ページ
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000901220.pdf>

⁸ HPVワクチン薬害訴訟
<https://www.hpv-yakugai.net/>

⁹ UMKテレビ宮崎2023年9月28日放送
<https://www.umk.co.jp/link/-20230928.html>

※いずれも最終アクセス日 2023年11月22日